

授業科目名： 現代東アジア特論（韓国） Contemporary East Asia (Korea)		担当教員名： TBA	
選択/必修： 選択 Elective	単位数： 2	セメスター： 後 Fall	開講言語： 日本語

○授業の到達目標及びテーマ

韓国と北朝鮮の政治と外交について主として日本語（一部英語）で書かれた優れた先行研究を渉猟することで学界の到達点を確認すると同時に、地域研究における多様な理論と方法論を比較検討し、韓国に限らず日本・中国・ロシアなど自らが研究対象とする地域において応用できるようになる。

○授業の概要

日本・中国・ロシアと並んで「地域・各国研究」の一つとして位置づけられていて、韓国や北朝鮮についてサブスタンスを理解するだけでなく、「地域研究の理論と方法」を応用し、他の地域・国とも比較する科目でもある。先進国の一つである韓国を研究する上で、一国に固有な概念や方法はどこまで必要なのか。あるいは、すでに他の事例で有用性が確認されている方法論をただ単に当てはめれば、事例を一つ増やすのは簡単なのか。そもそも、なぜ、韓国という事例で、その方法論を用いて研究することが重要なのか。どのようにすれば必ずしも韓国という事例に関心がない読者に読んでもらえる研究になるのか。このように一つひとつの先行研究をリバーシ・エンジニアリングすることで、研究の「消費者」から「生産者」になることが可能になる。日本語（や英語）で書かれたものに限定するのは、韓国以外の地域・国に関心がある学生の受講を妨げないためである。韓国語のリテラシーがある受講生には別途韓国語の文献も紹介する。

サブスタンスとしては、韓国と北朝鮮それぞれの政治と外交における主要な論点をほぼ網羅する。具体的には、韓国については権威主義体制からの民主化、民主体制の定着、経済発展と経済危機、中央地方間関係、社会政策、福祉国家、政治制度、選挙政治・民主主義論、外交政策、日韓関係・米韓関係、北朝鮮については政軍関係、核ミサイル問題である。

方法論としては、伝統的な歴史学的アプローチ、近年政治学で主流になっている合理的選択論、政治学と社会学とコラボレーションの可能性、少数事例比較としての日（米）韓比較について、妥当性や応用の仕方を比較検討する。

○授業の方法

- ・授業は日本語で行われる。
- ・受講生は毎回、指定されているテキストの要約（400字）と方法論的な特徴に関する比較分析（1200字）をショート・ペーパー（計1600字）として事前に提出し、相互に目を通した上で授業に参加する。
- ・授業では毎回、全ての受講生がショート・ペーパーについて報告した上で、ディスカッションを行う。教員は適時コメントや解説を加える。
- ・学期末には、受講生は自らが研究対象としている地域・国について、サブスタンスと方法論を戦略的に組み合わせた修士論文の序章（に相当するリサーチ・ペーパー）（6000字）を提出する。

○授業計画

第1回に授業内容の紹介等を行い、第2回以降は以下の7つの項目についてそれぞれ1～3回に分けて進める。

1. 韓国の政治

- (1)現代韓国政治の概要 (第2回)
- (2)歴史学的アプローチ (第3回～第5回)
- (3)合理的選択論アプローチ (第6回～第7回)
- (4)社会学的アプローチ (第8回～第9回)
- (5)日(米)韓比較 (第10回～第11回)

2. 北朝鮮・国際関係

- (1)北朝鮮の政治と外交 (第12回～第13回)
- (2)韓国の外交と日韓関係 (第14回～第15回)

第1回 授業内容の紹介等 授業内容の概略、方法等を紹介する。

第2回 現代韓国政治の概要

日本との比較において、現代韓国政治の特徴を概観する。

- *新川敏光・大西裕編『日本・韓国』（ミネルヴァ書房、2008年）
- ・森山茂樹『韓国現代政治』（東京大学出版会、1998年）
- ・木宮正史『韓国：民主化と経済発展のダイナミズム』（ちくま新書、2003年）
- ・木村幹『朝鮮半島をどう見るか』（集英社新書、2004年）
- ・浅羽祐樹『したたかな韓国：朴槿恵時代の戦略を探る』（NHK出版新書、2013年）

第3回 歴史学的アプローチ(1)

韓国政治史について概観すると同時に、歴史学的アプローチの方法論的特徴を理解する。

- *木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』（山川出版社、2012年）
- ・木村幹『韓国現代史：大統領たちの栄光と蹉跌』（中公新書、2008年）
- ・文京洙『韓国現代史』（岩波新書、2005年）

第4回 歴史学的アプローチ(2)

権威主義体制下の韓国政治史について概観すると同時に、歴史学的アプローチの方法論的特徴について異なる2つの時代を比較しながら理解する。

- *木村幹『民主化の韓国政治：朴正熙と野党政治家たち 1961～1979』（名古屋大学出版会、2008年）
- ・木村幹『韓国における「権威主義的」体制の成立：李承晩政権の崩壊まで』（ミネルヴァ書房、2003年）

第5回 歴史学的アプローチ(3)

民主化以降の韓国政治史について概観すると同時に、歴史学的アプローチの方法論的特徴を理解する。

* 崔章集（磯崎典世・出水薫・金洪楹・浅羽祐樹・文京洙訳）『民主化以後の韓国民民主主義：起源と危機』（岩波書店、2012年）

第6回 合理的選択論アプローチ(1)

韓国の政治経済について概観すると同時に、合理的選択論アプローチの方法論的特徴について近代化論アプローチと比較しながら理解する。

* 大西裕『先進国・韓国の憂鬱：少子高齢化、経済格差、グローバル化』（中公新書、2014年）

- ・ 大西裕『韓国経済の政治分析：大統領の政策選択』（有斐閣、2005年）
- ・ 大西裕「韓国：財閥主導経済の誕生とその後」片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門（新版）』（有斐閣、2010年、pp.73-90）
- ・ 趙利済、カーター・J・エッカート、渡辺利夫編『朴正熙の時代：韓国の近代化と経済発展』（東京大学出版会、2009年）

第7回 合理的選択論アプローチ(2)

韓国の中央地方間関係について概観すると同時に、合理的選択論アプローチの方法論的特徴について日本事例と比較しながら理解する。

* 南京兌『地方分権の取引費用政治学：大統領制の政治と行政』（木鐸社、2014年）

・ 曾我謙悟・待鳥聡史『日本の地方政治：二元代表制政府の政策選択』（名古屋大学出版会、2007年）

第8回 社会学的アプローチ(1)

韓国の社会政策について概観すると同時に、社会学的アプローチの方法論的特徴について理解する。

* 伊藤公雄・春木育美・金香男編『現代韓国の家族政策』（行路社、2010年）

・ 春木育美・薛東勲編『韓国の少子高齢化と格差社会：日韓比較の視座から』（慶應義塾大学出版会、2011年）

・ 大西裕『先進国・韓国の憂鬱：少子高齢化、経済格差、グローバル化』（中公新書、2014年）

第9回 社会学的アプローチ(2)

韓国における福祉国家の様態について概観すると同時に、比較研究における韓国事例の位置づけ方についても検討する。

* 金成垣『後発福祉国家論：比較のなかの韓国と東アジア』（東京大学出版会、2008年）

・ 相馬直子「韓国：家族主義的福祉国家と家族政策」『比較福祉国家：理論・計量・各国事例』（ミネルヴァ書房、2013年、pp.310-335）

第10回 日（米）韓比較(1)

少数事例比較の一つとして日韓比較を位置づけ、比較研究の方法論について検討すると同時に、合理的選択論的新制度論について理解する。

* 浅羽祐樹・康元澤・高選圭・西野純也編『日韓政治制度比較』（慶應義塾大学出版会、2015年）

年)

・ 斉藤淳・浅羽祐樹「恩顧主義と貿易自由化：コメ保護農政の日韓比較」『選挙研究』28 巻 1 号 (2012 年) pp.112-132.

・ 川中豪・浅羽祐樹「自己拘束的制度としての選挙管理システム：韓国とフィリピンの比較研究」『選挙管理の政治学：日本の選挙管理と「韓国モデル」の比較研究』（有斐閣、2013 年） pp. 59-82.

・ Yuki Asaba, “Presidentialism in Korea: A Strong President and a Weak Government,” in Yuko Kasuya (ed.), *Presidents, Assemblies, and Policy Making in Asia*, Palgrave Macmillan, 2013, pp. 40-58.

第 11 回 日（米）韓比較(2)

少数事例比較の一つとして日米韓比較を位置づけ、比較研究の方法論について検討すると同時に、選挙政治・民主主義論について理解する。

* 小林良彰・岡田陽介・鷲田任邦・金兌希『代議制民主主義の比較研究：日米韓 3ヶ国における民主主義の実証分析』（慶應義塾大学出版会、2014 年）

第 12 回 北朝鮮の内政

非民主的で閉鎖国家で情報も限られている北朝鮮についても、単に事実を記述するだけではなく「合理的に」分析する方法について理解する。

* 宮本悟『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』（潮書房光人社、2013 年）

・ 平岩俊司『北朝鮮：変貌を続ける独裁国家』（中公新書、2013 年）

第 13 回 北朝鮮の外交

北朝鮮の外交についても、単に事実を記述するだけではなく「合理的に」分析する方法について理解する。

* 平岩俊司『北朝鮮は何を考えているのか：金体制の論理を読み解く』（NHK 出版、2013 年）

・ 道下徳成『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史：1966～2012 年』（ミネルヴァ書房、2013 年）

・ Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008*, Routledge, 2011.

第 14 回 韓国の外交

韓国の外交について概観すると同時に、同一時期に対する同一著者による諸論考を比較することで研究戦略のあり方についても検討する。

* 西野純也「盧武鉉政権の安全保障政策と国内要因：「協力的自主国防」をめぐる機会と制約」『国際安全保障』第 33 巻第 4 号 (2006 年) pp. 11-36.

* 西野純也「外交安保政策形成の制度基盤：盧武鉉政権の事例」小此木政夫・西野純也編『韓国における市民意識の動態 II』（慶應義塾大学出版会、2008 年） pp.147-170.

* 西野純也「盧武鉉政権期の韓米同盟関係：「反米」政権イメージと同盟管理の実態」『法学研究』第 83 巻第 3 号 (2010 年) pp.195-218.

第 15 回 日韓関係

日韓関係における対立と協調のダイナミズムについて、一つひとつアドホックに記述するのではなく国際関係論に位置づけて体系的に分析する方法について理解する。

* ヴィクター・D・チャ（船橋洋一監訳・倉田秀也訳）『米日韓 反日を超えた提携』（有斐閣、2003年）

・ Victor D. Cha, *Alignment Despite Antagonism: The United States-Korea-Japan Security Triangle*, Stanford University Press, 1999.

・ 浅羽祐樹「国際関係論と地域研究の狭間：日韓関係研究の研究戦略」『国際政治』第 151 号（2008年）pp. 156-169.

○テキスト

各週に提示（授業計画を参照、「*」で表示）

○参考書・参考資料等

各週に提示（授業計画を参照、「・」で表示）

○学生に対する評価

・ 毎週授業に先立ち提出するショート・ペーパー（テキストの要約 400 字＋方法論的特徴に関する比較分析 1200 字＝計 1600 字）：2 点×14 回＝28 点

・ クラス討論への貢献：2 点×15 回＝30 点

・ 期末ペーパー（6000 字）：48 点